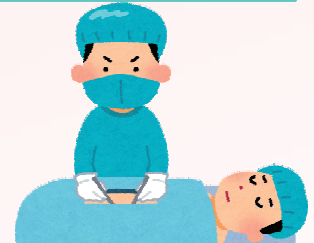


院長の独り言

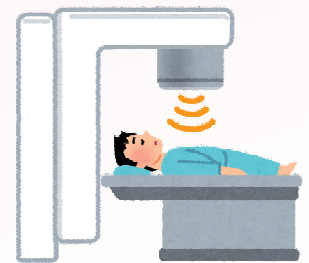
～ガン治療と医療費について考える～



ガンと闘う手段として、現代医学では、手術でガンの病巣を根こそぎ取り除く「手術療法」、放射線を当ててガン細胞を殺す「放射線療法」、抗ガン剤によってガン細胞を殺したり増殖を抑えたりする「化学療法」があります。しかし、ガンを攻撃するのはこのような身体の外からのものだけでなく、身体の中にある免疫細胞も、目一杯働けばガン細胞を殺してしまう力を持っています。この力を最大限に利用してガンに対抗する治療薬が「免疫チェックポイント阻害薬」です。今話題のオプジーボはその一種です。ガン細胞は自分がヒトの免疫システムによってやられないようにする物質を作って、ガン攻撃の主役であるT細胞を臆抜けにしています。オプジーボは、ガン細胞がT細胞にちょっかいを出さないように妨害して、T細胞が全力でガン細胞を攻撃できるようにします。こうすれば、どんなガンも退治できそうに思えますが、ヒトがもともと持っている免疫力を利用していますので、その力が十分ない場合には、攻撃力が弱くなり、ガンをせん滅できません。ですから、オプジーボの有効率はせいぜい30%留まりです。



手術療法



放射線療法

免疫チェックポイント阻害薬の限界を打破して、免疫療法の有効率を80%にまで上げた治療法が、現在脚光を浴びている「遺伝子改変T細胞療法」です。そのメカニズムは、T細胞を体内から取り出して、ガン細胞を見つけやすくなるように遺伝的に加工し、ガンに対する攻撃力も高めて患者さんの身体の中に戻すのです。米国で開発されましたが、日本でもタカラバイオが臨床試験を始めました。問題はその価格です。治療は1回で終わるのですが、米国では4,000~5,000万円に設定されました。オプジーボでも当初は1人当たり年間3,500万円かかる薬価が付きましたので、治療が1回で有効率が高いのであれば、決して高くないのかもしれませんが。日本で使えるようになるのは再来年くらいだと言われています。それまでに医療費と効果について十分な議論が必要になると思います。



化学療法